

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

指導者候補現地活動報告（バヤンホンゴル県）

帯同者：根来 信也（国際部）

指導者候補：バトムンク・アルタンエルデネ

※NHK ワールド取材陣帯同

日 程

9月3日：移動（1）

ホブド県からゴビアルタイ県へ移動



写真1 取材打ち合わせ

9月4日：移動（2）

ゴビアルタイ県からバヤンホンゴル県ジャガラントソムへ移動ならびに現地視察



写真2 移動道中



写真3 バヤンホンゴル県ジャガラントソム病院

9月5日：活動（1）

バトムンク・アルタンエルデネ（アルタイ）指導者候補の遊牧民に対する現地活動調査



写真4 バトムンク・アルタンエルデネ指導者候補



写真5 右肩関節脱臼前方脱臼患者（遊牧民）予後確認

患者（1）：右肩関節前方脱臼

馬を引っ張って歩いていた際に、馬に引っ張られて右肩関節を脱臼する（反復性脱臼）。指導者候補が、ヒポクラテス法で整復するも整復されず、コッヘル法を行い、整復される。今回は、その後の予後確認を今回行った。

ジャガラントソム病院にて、病院視察中、右下腿骨下端部脱臼骨折患者（男性）が搬送され、アルタイ指導者候補が、シーネ固定を行った（写真6,7）。



写真6 アルタイ指導者候補専用処置室



写真7 処置風景

9月6日：活動（2）

アルタイ指導者候補の遊牧民に対する現地活動調査



写真8 右下腿骨中下1/3部骨折患者

患者（2）：右下腿骨中下1/3部骨折

2014年6月25日にバヤンホンゴル県都近くで、馬の調教の試合に出場時に、馬に右下腿部を蹴られ、受傷する。県立病院にて診察の結果、右下腿骨中下1/3部骨折にて、患者の住んでいるジャガラントソム病院にて治療を行うように指示があった。

アルタイ指導者候補がシーネ固定を行ったが、大黒柱のため、病院へは1度しか通院せず、以後アルタイ指導者候補が往診を行っている。9月15日、県立病院にて診察予定である。

今回、アルタイ指導者候補の住んでいるジャガラントソムにて現地活動調査を行った。ジャガラントソムは、バヤンホンゴル県都より約180km離れており、道も悪く、車で約4時間かかった。

ジャガラントソム病院はジャガラントソムを含む近隣のソム（市）の4つの合同の病院である。レントゲン設備はなく、外傷患者は、県都までレントゲン確認に行く必要がある。アルタイ指導者候補の話によると、来年にはレントゲン設備が導入される予定である。

病院院長は不在であったが、外科医にアルタイ指導者候補についてインタビューを行った結果、外傷治療専門バグ医師としての評価は高く、日本・ウランバートルでの柔道整復術の研修を高く評価していた。

アルタイ指導者候補が、遊牧民に対して往診を行っているが、移動手段はバイクであり、移動時にはパンクを頻繁に起すほど、道は険しかった（写真9）。往診道中にて、泥酔したまま遊牧民が落馬しており、アルタイ指導者候補が見つめ、的確な診察を行った結果、大きな外傷もなかった（写真10）。



写真9 パンク修理



写真10 落馬患者

アルタイ指導者候補は、往診時、日本研修の記念品のバックを大切に用いていたが、シーネなど固定材料を入れるには小さく、カバンを大きくするとバイクの運転に支障をきたすと思われ、リック式の応が有効であると思われた（写真11）。

病院に来院される患者の多くは遊牧民で、頻繁に来院することは、経済的・距離的に困難であることが調査から明らかとなった（写真12）。



写真11 往診カバン



写真12 インタビュー調査

また、遊牧民の多くは病院に来院せず、バリアッジ（民間療法を行う者）が外傷の治療を行うことが多いことが、遊牧民患者家族よりのインタビューにて明らかとなった。

遊牧民へ往診する際に、ケガの注意点などの資料を作成し、持参・配布・指導を行うことが重要であると痛感した。